

ようこそ、土地改良区へ

〈雲出井土地改良区〉

1、雲出井土地改良区の概要

当土地改良区は、三重県北中部の津市南部に位置し、雲出川左岸沿いに展開する平坦な水田地帯で、米作を中心にキャベツ・白菜等の生産を行っています。受益面積は約470haで、雲出川より取水した農業用水の安定供給と円滑な配水を行うため、雲出井頭首工と雲出井用水路の維持管理を行っています。



雲出井用水路



雲出井頭首工

2、歴史背景

雲出井用水路の開祖「西島八兵衛」は、江戸時代初期に幾度となく大干ばつに見舞われ、餓死寸前の農民を見た伊勢の国二代目藩主藤堂高次の命により、雲出井の大工事に着手しました。



西島八兵衛

戸木村（現在の津市戸木町）に井堰を造って雲出川から取水し、高茶屋で水を三分して雲出や高茶屋の村々にまで水を行きわたらせようとするものでありました。雲出井の工事は、土地の高低を測るため、夜間に提灯を立て並べたというエピソードが物語のように大変難しい工事でありましたが、八兵衛の優れた技術と村人たちの尽力によって、慶安元年（1648）に完成しました。

総延長13kmに及ぶ雲出井の開通で約600ha、当時1万石近くを収穫できる田畑が潤いました。

雲出井土地改良区では、毎年4月19日、西島八兵衛の功績を称えるとともに、通水の安全・五穀豊穡を祈願して記念祭を行っています。



当時の鳥瞰図

3、21世紀土地改良区創造運動

環境保護活動として、毎年10月、国土交通省の呼びかけで美しい水辺を取り戻す清掃活動「雲出川クリーン大作戦」に参加しています。また、地区社会福祉協議会・小学校の取組みに協賛し、雲出井用水路に「ゲンジボタル」の幼虫を放流し、幼虫や餌となるカワニナの生息環境に配慮した水路清掃活動や環境学習に取り組んでいます。



清掃活動（雲出川クリーン大作戦）

そのほか、出前授業や社会見学の受入れをし、土地改良区が地域に果たす役割について啓発活動を行っています。



環境学習



出前授業



社会見学

4、今後の課題

近年の農業を取り巻く環境は厳しく、従事者の高齢化や後継者不足により、農地の転用や遊休農地が増えています。

農業の振興を図るには、担い手の集積集約、耕作放棄地の解消に取り組むとともに、老朽化が進んでいる頭首工や幹線農業用水路等、施設の全面的改修をする必要がありますが、その財政基盤をいかに強固にしていくかの取組みが大きな課題となっています。